

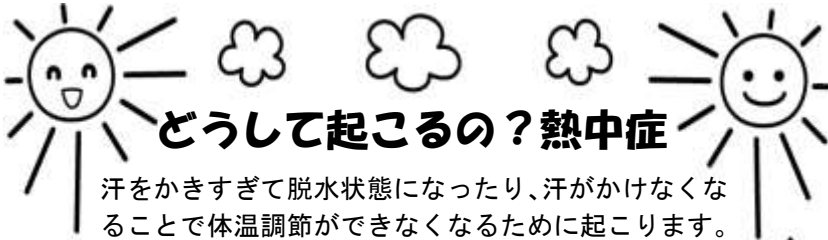


保健安全だより

7月

伊文保育園

夏の強い日ざしや、高温多湿の気候は、子どもの体に大きな負担がかかります。元気そうに見えても、体は意外に疲れています。周囲の大人が正しい知識を身につけて、暑い夏も、楽しく安全に過ごせるようにしていきましょう。

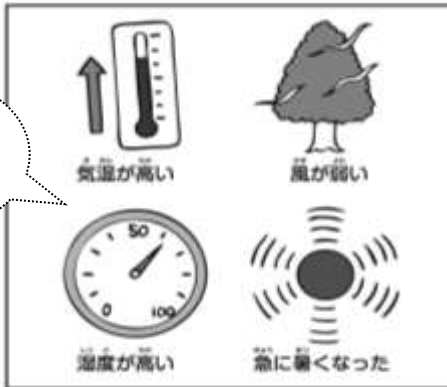


どうして起こるの？熱中症

汗をかきすぎて脱水状態になったり、汗がかけなくなることで体温調節ができなくなるために起こります。子どもは、大人より体温調節機能が未発達で、脱水症状も起こしやすいので注意が必要です。



こんな時には要注意！



「熱中症？」と思ったら

★涼しい所で休ませる

涼しく風通しのよい場所に本人が楽な姿勢で寝かせる。衣服のボタンやベルトを外す。

★体を冷やす

首の後ろに冷たいタオルなどを当てる。風を送る。



★水分の補給

イオン飲料など少量の塩分の入った水分を補給する。



気をつけよう！夏にはやる病気！

ヘルパンギーナ

高熱とのどの痛み。特にのどは、水ほうや潰瘍ができるため、かなり痛む（乳児はミルクが飲めないほど）。水分が撮れないときは早めに病院を受診しましょう。

手足口病

手のひらや足の裏、口の中に小さな発疹や水ぼうがで、熱が出ることも。症状が治まっても、2～3週間便からウイルスが出ています。発疹が治まってからの登園がのぞましいです。



フェール熱・咽頭結膜熱

アデノウイルスによる感染症で、感染力が非常に強いです。高熱とのどの痛みのほか、目の痛み・かゆみ・充血など、結膜炎のような症状がでる。登園許可証が必要です。



フェールの事故に気をつけて！

ご家族とプールや海水浴に行ったり、おうちで小さなビニールプールを出して遊んだり、水遊びが楽しい季節になりました。

「溺れる」というとバチャバチャと激しい動きを想像しがちですが、溺れているときは、声も出せず手足もうまく動かせないものです。すぐそばで人が溺れていても気付かないことさえあります。

小さな子どもは必ず大人の手の届く範囲で遊ばせ、目を離さないのが鉄則。

浮き輪をしていても、浅くても、子どもは溺れます。油断はせずに注意しててください。

(セコム HP 参照)

